

セミナーテーマ：「学習者の動機付け—教室で教師ができること」

2016 年の 1 月 23 日、24 日の両日、高雄と台北で、「学習者の動機付け—教室で教師ができること」と題して少しお話させていただきました。どちらの会場でも、50 年ぶりといわれる寒波の中をお集まりいただいた熱心な参加者の方々と、非常に貴重な時間を共有することができました。ありがとうございました。以下、そのときの研修内容を簡単ですがご報告させていただきます。

1. 『道具的動機付けと統合的動機付け』：参加者のみなさんの学習者は、どういった動機で日本語を勉強しているのか、それぞれ周りの方々と意見交換した後、発表してもらいました。「単位になるから」、「就職のため」、「テストがあるから」、「給料が上がるから」といった「道具的動機付け」と「日本のアニメが好き」、「日本文化が好きだから」、「日本に遊びに行きたいから」、「日本人の友達がいるから」という「統合的動機付け」に分かれました。これらは日本語を学習するための動機ではあるけれど、教師が教室でコントロールするのはなかなか難しいものだ、という共通理解を得ました。

2. 『外発的動機付けと内発的動機付け』：それでは、教師が教室で、少しでも刺激したり、コントロールしたりできる動機付けとはどんなものだろう。参加者のみなさんが、実際に学習者の動機付けを高めるために日ごろからやっていることを、周りの人同士で意見交換して発表してもらいました。「成績上位者には特典をあたえる」、「テスト結果の上位者を Facebook で発表する」、「成績がいい人は選ばれて日本に留学できる」などの外発的な動機づけと「楽しい教材を使うように心がけている」、「学んだことを実際に使える場所を提供する」、「教師自身が成功モデルになる」、「先輩で日本語で成功した人の話をする」、「学習者が好きなアニメやマンガを素材に使う」といった内発的動機付けの例も多く出てきました。その上で、これら外発的動機付けと内発的動機付けは、教室の中で教師がコントロールすることができるものであることを確認しました。

3. 『内発的動機付けにつながるさまざまな要素』：外発的動機付けよりも更に効果的であるといわれている内発的動機付けについて、その構成要素を考えてみました。「自律性」、「有能性」、「関係性」の三つです。それぞれ、実際の事例を提示しながら、学習者がどの

ような気持ちで学習をしたくなるのかについて考え、共有しました。

4. 『では、実際は』: 休憩を挟んで、前半で検討した内発的動機付けの3要素について、講師が実際に教室で行っていることを紹介しました。具体的には以下の項目です。

1) 自律性の支援

- ①学習者モデルの提示
- ②教師自身がモデルとなりうる
- ③自律化の芽をフォローする
- ④気づきの学習

2) 関係性の構築

- 新奇性と親しみやすさ (教室に楽しくリラックスした雰囲気をつくる)
- ⑤道具 実物 指示棒、やじるしパネル、
- ⑥素材 有名人の写真 身近な人
- ⑦話題
- 信頼関係の醸成
- ⑧教師の態度
- ⑨ファシリテーターとしての教師 絵を描いて話す活動

3) 有能性の刺激

- 達成感
- ⑩わかった 「新日本語の基礎復習ビデオ」
- ⑪話せた 例) まるごとプラス の話す練習
- ⑫テストの目的
- 知的好奇心
- ⑬学習者がひきつけられること、知りたいことは何か。

以上を紹介しましたが、「④気づきの学習」のところでは、参加者のみなさんも、学習者に気づかせる方法について、少し考えてみる時間を設けて、日ごろのアイデアをシェアしました。

あっという間の3時間でしたが、熱心な参加者の方々に恵まれ、講師自身も大変有意義な時間がすごせたと思っております。アンケートでは、すぐ教室で使えるさまざまなアイデア、役に立つ話が聞けてよかったという声も多く聞かれたようで安心しました。